

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（国語）

東京都北区立なでしこ小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	・言葉や文を書く活動が不足していた。また、マスを意識して形に気を付けながら書くことや、書く際の土台となる姿勢や鉛筆の持ち方などについて指導したが、十分ではなかった。 ・授業時間の中で、特殊音節を含む言葉や助詞について読んだり、書いたりすることは、できている。定着については、十分とは言えないので、自力解決できるよう繰り返し指導していく。	・言葉や文を書く活動を増やしていく。朝学習や学習タイムなども活用して繰り返し取り組めるようにする。個別指導を増やしていくことで、言葉や文を書く指導を充実させていく。また、マスを意識して形に気を付けながら書くことや書く際の土台となる姿勢や鉛筆の持ち方などについて、繰り返し指導していく。 ・特殊音節など読みの際に動作化する活動を取り入れて音と文字を視覚的に理解させ、定着を図る。また、多くの言葉や文章に触れられるように音読や書くことの宿題を計画的に行っていく。	・ミニひらがな50音表カードを提示して自分で文字を探して書くことができるような手立てを取り入れていく。 ・週1回の図書の時間を確実に行うとともに図書の時間の充実を図り、児童同士が読み聞かせをしたり、おすすめの本を提示したりすることで本に触れる機会を増やしていく。
2年	・自分の考えを書く力を育む指導が、不足している。自信をもって、自分の思いや考えを表現する力を身に付けられるよう、個々の力に合わせた指導を充実させる必要がある。 ・語彙を増やしていく学習が単発的になりがちである。学んだことを生かす活動を継続的に取り入れていく必要がある。	・常時活動として、作文の時間を確保する。家庭学習の一環として短文を書く活動を定期的に取り入れる。 ・教科書巻末にある「ことばのたからばこ」を活用しながら、語彙を広げていけるようにする。身に付けた言語表現については掲示したり、シートを作ったりすることで、児童の言語環境を充実させる。	・段落や句読点、助詞の使い方など文法的なことも同時に指導するようにする。手本となる文章は児童に紹介し、意欲的に活動に取り組むことができるように働き掛ける。 ・単元に関連した図書の特設コーナーを作るなど、読書環境を充実させ、様々な言葉に児童に触れることができるようにする。
3年	・文章を書く課題に対する苦手意識が児童に見られるため、自分の意見や考えの伝え方をより丁寧に指導していく必要がある。 ・読解力に課題がある児童が見られるため、説明的な文章・文学的な文章共に丁寧に読み解かせていく必要がある。	・考えをまとめるツールの使い方や、文章の型を分かりやすく説明し、一つ一つの段階での躓きを小さくしていく。 ・文学的な文章では、登場人物の行動や気持ちに裏線を引かせ、なぜそこから読み取れるのかを考えさせ共有することを確実に行う。説明的な文章では、各段落の中心となる語や文を見付けて要約したり、段落相互の関係と、筆者の説明したいことを確実に捉えられるようにする。	・授業との並行学習として、日常的に読書や音読に取り組みせ、文章に触れることへの抵抗感を減らしていく。 ・年間を通じて、日記や意見文、振り返りカードなどで自分の思いや考えを文章に書く機会を増やし、文章を書くことに対する苦手意識を減らしていく。
4年	・日頃の漢字学習は、新出漢字の習得が中心となっており、既習の漢字の習得状況の確認や復習が十分にできていない。 ・文章の読み取りに課題が見られる。教材文の読み取りだけでなく、日常的に文章から情報を読み取る経験を積ませていく必要がある。 ・書く活動に抵抗感がある児童もあり、自分の考えを文章にまとめる指導が不足している。	・新出漢字の学習は10月を目処に完了し、3年次までに学習した漢字を含む復習を行う。 ・板書や掲示資料を工夫し、文章の構造と内容の把握を深める。 ・文章を書く活動を多様な場面で取り入れ、タブレットを使う場面と、紙に書く場面を適宜選択し、書く学習を充実させる。文章の添削を丁寧にを行い、文章を書く際の基礎的な部分や、漢字について指導する。	・日記や意見文（NIEタイムなど）といった自己と関わる話題について文章を書く機会を作る。 ・学校生活全般において、文章から情報を読み取り行動する場面を増やす。 ・新出漢字の学習では、その漢字を使った様々な熟語を取り上げ、複数の使い方を紹介することで、漢字を使用できる場面を広げる。
5年	・年間を通して辞書を引いて意味調べをする学習が少なく、言葉の意味を理解させきれていない。 ・日頃から読書をする習慣がなく、文章を読むことが苦手な児童が多い。そのため、これから朝学習等で短い時間でも読書をし、文章に親しませる必要がある。	・連用修飾語等、言葉の理解ができていないため、辞書を使い、調べる学習を行う。 ・物語文や説明文、どの学習でも単元の学習計画を立て、学習の見通しをもたせる。また、物語文では、登場人物の心情や、単元の最後に感じたことや考えたことなどを確実に振り返らせるようにする。	・どの単元でも必ず意味調べを行う。難しい言葉が出てきても授業中に発問し、全体で共有することで意味を理解できるようにする。 ・年間を通して、学習内容に関連する様々なジャンルの本を紹介したり、読書分類表を理解したりする中で、多様な文章に接することができるようにする。
6年	・考えを交流する機会はあるが、自分の考えをもって、目的に向けて話し合う機会が少ない。 ・習得した知識・技能を活用しながら、幅広く自分の考えを表現していく活動の取組を充実させる必要がある。	・話し合っ合意形成を図ったり、考えを述べ合ったりするなど、工夫して目的に向けて話し合う機会を作る。 ・自分の意見や考えを書かせる習慣を、国語科も含め、各教科の学習時間中に取り入れる。	・NIE学習に年間通して取り組む。新聞を読んで関心をもった記事を自分で選び、自己の感想や考えを200字程度でまとめ、友達と意見を交流する活動を行う。 ・年間を通して、学習内容に関連する様々なジャンルの本を紹介し、多様な文章に接することができるようにする。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（社 会）

東京都北区立なでしこ小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	・スーパーマーケットや区役所などの王子周辺の見学を検討したが実施が困難となるなど学習テーマによって体験的学習の設定が困難であり、児童の興味関心を高めることができていない。	・買い物調べ・お店見学・昔の道具体験など実際に自分で見たり体験したりする活動を多く取り入れ、児童の意欲・関心を高める活動や発問を意識して行う。教材の特性を考慮して学習過程を工夫し、内容の配列や時間配分を考える。	・体験的な学習から気付いた児童の課題意識を大切にし、学習したことの関連性や意味を考える活動を行う。また、地図やグラフ等の資料の読み取り方や方位等、社会における基本的な知識、技能を定着させるため、ラインズEライブラリーやスタディサプリを活用する。
4年	・児童が主体となり学習問題を設定し学習計画を立てるといった問題解決型の学習が定着していない。 ・社会的事象に関する知識の習得に向けて、学びを充実させていく必要がある。	・単元導入時における資料を工夫し児童の疑問を引き出すようにする。 ・単元構成図を元に、小単元内で押さえるべき見方・考え方を整理した上で指導にあたる。	・ラインズEライブラリーやスタディーサプリを家庭学習で活用し知識の定着を図る。 ・他教科・領域と関連させながら既習の知識を関連させながら活用させていく。
5年	・児童の興味・関心を高めた上で、資料を読み取り、資料からどのようなことが言えるのかを考えていく学習を繰り返して行っていく必要がある。 ・学習事項を活用して、初見の資料を読み取る指導が不足している。	・習得した知識・理解を生かして資料を読み取り表現するなど、実際の問題解決の場面で役に立つという実感をもたせる。 ・資料を調べる活動の際に、見る視点、見方の指導を丁寧に行う。	・新聞記事の紹介など、児童が身の回りの生活との関わりを感じ、興味・関心や学習意欲を高められるようにする。 ・折に触れ、資料から分かることを一問一答のクイズ形式で、資料の見方を確かめながら授業を行う。
6年	・資料を読み取ることができるが、資料を読み取り分かったことを基に、自分の考えを表現していく活動の取組を充実させる必要がある。	・資料から読み取ったことや既習事項を基に、どのようなことが考えられるか、自分の言葉で表現するした上で、友達と交流する機会を計画的に設ける。	・新聞記事の紹介など、児童が身の回りの生活との関わりを感じ、興味・関心や学習意欲を高められるようにする。自己の感想や考えをもち、友達と意見を交流する活動を行う。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（算 数）

東京都北区立なでしこ小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	・「なかまづくりとかず」では、算数ブロックの操作をしながら、1対1対応を指導したことで、理解が深まった。1～10までの数について数量の大きさについては理解できたが、数字の書き方については、まだ定着していない児童もいるので、繰り返し指導していく必要がある。 ・繰り上がりなしの加法や繰り下がりなしの減法について、算数ブロックを用いた指導を行ったり、プリントや計算スキルを用いて繰り返し練習したりしてきたので、8割程度定着してきた。	・算数に対して苦手意識を持っている児童に対しても、確かな理解ができるよう、具体物や半具体物を活用するなど視覚的な教材を用いたり、ブロック操作をしながら理解を深めさせたり、繰り返し練習する時間を確保するようにする。 ・計算が得意な児童については、加法や減法については、暗唱できるくらい練習させる。また、文章問題に取り組みさせ、応用問題にも慣れさせる。	・朝学習やなでしこタイムの時間を利用して、繰り返し練習問題(プリントやきたコン)などに取り組みさせ、習熟を図る。 ・間違えた問題を解き直すことにより、学力の定着を図る。 ・自分の解決方法を皆の前で発表し、考えを交流する機会を作る。
2年	・学習の流れを児童に定着させようとするために、一方的な講義型の授業や1問1答式の授業になりやすい。 ・問題について、児童一人一人に考えさせる時間が不足している。 ・数名の理解が高まらない内に、次の項目へ進まざるを得ない状況になりがちである。	・1時間の学習の中で、「課題把握」「自己の考えをもつ」「みんなで繰り上げる」といった授業の組み立てを定着化させる。 ・解法を説明させたり、友達の考えを聞いて自己の考えを深めさせたりする時間を意図的に設定する。 ・適応問題は児童の理解度によって選択できるようにし、解き方を確実に身に付けられるようにする。	・朝学習や家庭学習では、ベーシックドリルに取り組む時間を定期的に取り、自己の定着度が理解できるようにする。 ・習熟度の上がない児童には、個別の課題を提示したり、ポイントを絞った指導を行ったりする。文章の問いについては、図示するなど、補足やヒントを提示する。
3年	・九九や2回繰り下がる減法の筆算などの既習事項を確実に定着させる指導が必要である。 ・自力解決の時間を十分に確保する必要がある。 ・視覚的に分かりやすい教材教具を用意し、理解を深めていく必要がある。	・児童の理解度に応じて問題を変えたり、考えの足掛かりとなる具体物や図表を示したりする。 ・自力解決の時間をしっかり確保し、説明する際には、式だけでなく、図や言葉も用いて説明させる。 ・授業の中だけでなく、家庭学習などでも九九や計算演習に取り組みさせ、定着を図っていく。	・四則計算等、小学校で学ぶために必要な基礎の知識が3学年に多い。学習定着を図るため単元終了時などに練習プリントやきたコンなどを活用し、既習事項を確認する問題に取り組む。 ・朝学習やなでしこタイムなどの時間を使って定期的にベーシックに取り組ませ、前学年の基礎基本の確実な定着を図る。
4年	・個の能力差が大きいと、個別の課題をより明確に把握した上での習熟度別指導が必要である。 ・図形の学習では、視覚的に分かりやすい教材教具を用意した上で、指導を行っていくことが重要である。 ・自力解決の時間を十分に確保する必要がある。	・操作的な活動を取り入れながら図形の構成の仕方について考える活動を多く取り入れる。 ・児童の理解度に応じて問題を変えたり、考えの足掛かりとなる具体物や図表を示したりする。 ・自力解決の時間をしっかり確保し、説明する際には、式だけでなく、図や言葉も用いて説明させる。	・一人一人の課題に合わせた個別練習プリントやきたコンなどを活用し、既習事項の確認する問題に取り組む。 ・朝学習やなでしこタイムなどの時間を使って定期的にベーシックドリルに取り組ませ、前学年の基礎基本の確実な定着を図る。
5年	・基礎的な計算力、それを活用して問題解決する力など、個々に抱える課題にばらつきがあるため、個別の課題をより明確に把握した上での習熟度別指導が必要である。	・考えを説明する際に、式と答えだけでなく、図や言葉を活用して、視覚的に立式の根拠や計算の仕方を説明させる。 ・授業末の「まとめ」をしっかりと行い、本時のねらいを児童が理解しているかを確認する。	・単元終了時などに計算ドリルや練習プリント等を活用し、既習事項を確認する問題に取り組む。 ・ベーシックドリルに定期的に取り組ませ、補充プリントを与え、前学年の基礎基本の確実な定着を図る。
6年	・一人一人の学力に個人差が大きいと、個別の課題をより明確に把握した上での習熟度別指導が必要である。 ・自分の考えを表現することを苦手とする児童に対して、指導を工夫していく必要がある。	・振り返りを行い、自分の間違いやすい点や、考え方で参考になった点などを振り返り、自分の課題を、児童それぞれが把握できるようにする。 ・ノートを書き方を例示して、思考が分かるノートの作成させる。	・習熟度別少人数学習を進める中で、自分に合ったペースの学習により、一人一人の基礎基本を確実に身に付けていく。 ・ベーシックドリルに定期的に取り組ませ、補充プリントを与え、前学年の基礎基本の確実な定着を図る。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（理 科）

東京都北区立なでしこ小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	・校内で観察できる生き物や植物が少なかった。赤水門に行き、社会科「わたしたちの北区」と「しぜんのかんさつ」の二つを絡めた学習で補填することができた。実際の生き物や植物に触れ、一人一人が問題解決していけるように、計画を立てていく必要がある。	・一人一人が追究したい植物を観察できるように、時期を考えて植えさせる。その際は、天候不良なども考慮し、植える場所や数を調整する。 ・生き物の観察ができるように、校外学習を計画したり、外部講師を招いたり、意図的に計画していく。	・主体的な学びができるように、児童の身近な事象から問題設定する。単元のまとめでは、学習した内容を活用するような問題を出したり、ものづくりを計画することで、活用能力を伸ばしていく。
4年	・生物単元においては、実感を伴って知識を定着させる活動が不十分である。 ・事象との出会いや問題把握の時間が不十分のため、問題解決的な学びつながっていかない。主体的に取り組む態度を育てるためにも、指導方法を工夫していく必要がある。	・実感が伴うよう観察・実験の時間を十分に取るとともに、実験の結果から物質やエネルギーの働きや性質について思考する時間を確保する。 ・事象との出会いの工夫を図り、問題解決型の学習を意識していく。 ・既習の学習と関連付けやすいように、学習内容を適宜掲示したり、資料として提示したりする。	・ライズEライブラリーやスタディーサプリを家庭学習で活用し知識の定着を図る。 ・理科支援員と連携し、実験器具を正しく操作する技能が高まるようT・Tでの指導を実施する。 ・学習したことを応用した作品を作る、学習した方法以外にできる実験方法を考える活動を取り入れるなどし、学習を深められるようにする。
5年	・児童は、「実験が楽しかった」「調べてノートに書いた」ということで留まっている。学んだことを知識として活用したり日常と結び付けたりできるような力を身に付けるため、理科的事象に関心をもち、学びに対する主体性を高める指導が必要である。	・学習の導入において、自然事象との出会いに興味関心を抱けるような教材提示を行う。 ・ノート指導に重点をおき、自身の思考が整理されたノートを作成できる力を付ける。	・新聞記事や文献から、理科に関連する内容を紹介し、日常生活との結び付きを実感させる。 ・単元終了時に模造紙等に事象や名称、結論をまとめて掲示したり、復習問題を行ったりして知識の定着を図る。
6年	・既習事項と日常生活の関連を実感できるよう授業計画を立ててこれまで実践してきたことで、理科への関心は以前より高まっている。今後は、各内容の知識・技能の定着を図り、理科的な見方・考え方の力を高めていく手立てを講じていく必要がある。	・学習の導入において、自然事象との出会いに興味関心を抱く教材提示に加え、予想・考察等を思考させるための発問を精選して授業を行う。 ・引き続きノート指導に重点をおき、問題づくり・予想・考察・結論までにおける個々の思考が整理されたノートを作成できる力を付けていく。	・文献や新聞記事等の時事的な話題から理科に関連する内容を紹介し、学習内容と日常生活との結び付きを実感させる。 ・各単元の終了時に学習事項を復習できるような問題を提示し、知識の定着を図る。